

大学院案内

Graduate School of
Kansai University of International Studies

2026

看護学研究科
看護学専攻

博士前期課程

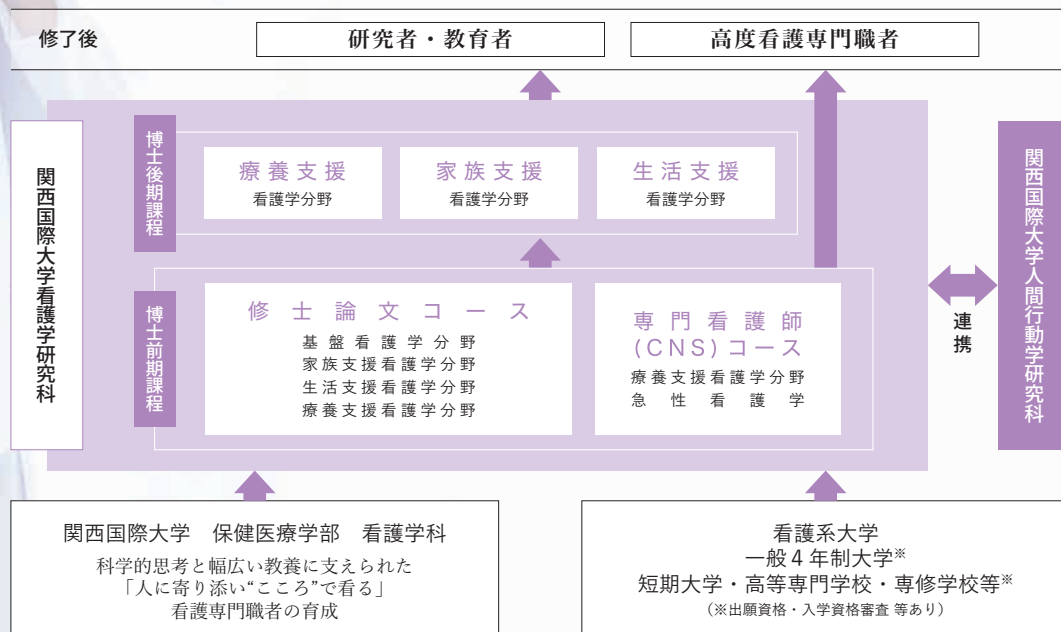
- ・修士論文コース
- ・専門看護師(CNS)コース

博士後期課程

さらなる高みを目指す

さらなる高みを目指す

関西国際大学は、建学の精神を「以愛為園（愛を以て園と為す）」とし、世界的視野に立ち、人間愛にあふれ、創造性豊かで行動力のある人間の育成をめざし、知性あふれる学問の場を提供することを教育理念としています。その理念に立脚して、看護学研究科では人間愛と高い倫理観を基盤とし、高度な看護学の学術の理論と応用、最新の看護実践科学を教授することで、看護の課題を科学的に探求する態度、及び創造性とリーダーシップ能力を備えた看護実践能力を有する高度専門職業人の育成を目指しています。



高い能力を持った 看護専門職者を めざす皆様へ

学長 濱名 篤



本大学院の看護学研究科は、2020年4月より博士後期課程を新たに開設いたしました。大学院には様々な役割がありますが、本大学院が主に対象としているのは、地域医療・看護の現場で経験を積んだ上に、高度専門職業人としてさらに資質向上・成長をしようとする皆さんです。そのために、大学院設置基準第14条に定める特例措置、すなわち「勤務しながら大学院に在籍し修学を可能にする」ことができるようにし、現場のニーズに直結した研究が仕組みになっています。

教育方法としては、職業生活と両立しやすいように、Zoomなど遠隔学習による受講を全面的に取り入れています。学位論文指導を除くすべての授業において、キャンパスへ通学しなくても、職場やご家庭から教授たちと双方向での遠隔授業が受講できます。どこからでも受講し、教員と双方向で質疑が可能になりました。

地域社会における看護を牽引し、創造性とリーダーシップ能力を備えた看護実践能力を有する高度専門職業人の育成を目指し、療養支援、家族支援、生活支援といった地域ニーズに沿った分野を中心に、最新の看護実践科学を学び、研究できる教育課程にしています。

国際大学という環境の中でのグローバルな視点と、地域や現場に密着した視点をもつ高度看護専門職への道を歩み始められることを心より期待します。

高度な実践能力と 研究力を修得し 新たな看護の創造を

研究科長 藤原 和美



大学院に進学した理由をお聞きすると、自己成長の壁にぶつかって学びなおしたい、自分の課題の解決をしたい、臨床で感じた疑問や課題を明らかにしたい、実習指導やスタッフ教育を経験し看護教育に興味を持ったなど様々でしたが、いずれも看護専門職としてのキャリアを積み重ねる中で、学び続けたいという意欲や改めて学ぶ必要性を感じられたこと動機となっていました。看護学研究科での研究活動を通じて、修了時には進学のきっかけとなっている「看護とは何か」について、研究成果をもとに自身の言葉で説明できるようになっていることと思います。

本大学院の修士課程には、臨床での疑問や課題を探索し、研究者として基礎的能力の修得を目指す「修士論文コース」と、特定の分野において課題解決のための研究的アプローチや実践能力の修得を目指す「専門看護師（急性・重症患者看護）コース」があります。博士後期課程では、修士課程で修得した能力を基盤に、さらに看護学の発展に寄与する質の高い研究能力を修得し、エビデンスに基づいた看護実践能力の育成を目指しています。

医療の急速な高度化や超高齢社会により健康問題は複雑化しています。このような状況においては、根拠やアウトカムを明確にして看護を示していくことが重要です。大学院での研究成果を社会に還元していただけることを願っています。

大学院で学びを深めたい社会人の皆様へ

■社会人向けの入試制度

- ①短期大学、高等専門学校、専修学校の卒業生など4年制大学を卒業していない方であっても、3年以上の実務経験を有し、個別の入学資格審査に合格することで、大学院を受験することが可能です。※専門看護師(CNS)コースは救急看護の分野で5年以上の臨床経験が必要。
- ②博士前期課程には、社会人特別選抜型(キャリア推薦入試)があり、今まで培ってこられた経験などを考慮した社会人の方に配慮をした受験種別があります。詳しくは、募集要項をご確認ください。

■授業日の日程を教員と調整

社会人の方の学びやすさを考慮し、授業日の日程を教員と相談し、あらかじめ調整することができます。それにより、無理のない履修計画を立てることができます。

■オンラインを使った遠隔教育(特別研究以外)

特別研究は、対面となりますが、それ以外の授業においては遠隔での受講が可能です。教員とあらかじめ調整した日程で実施がされますが、通学する必要がないため時間を有効に活用することができます。

■特別研究は希望するキャンパスで集中受講

対面で実施しなければならない特別研究においては、ご自宅、もしくは勤務先から一番近いキャンパスでの受講が可能です。本学は、三木キャンパス、神戸山手キャンパス、尼崎キャンパスと3キャンパスあり、キャンパスを選択することができます。

■大学院入学前に、履修相談、準備学習が可能

入学後の履修については、事前に担当領域の教員と相談し、在籍期間中の履修計画を無理なく立てることができ、安心して学べる環境を整えます。

また、入学後、学修を進めていく上でレポート作成に必要なワード、エクセル等の使い方も、希望者には事前にサポートいたします。

■図書館(メディアライブラリー)の利用について

関西国際大学のメディアライブラリー(図書館)では、看護専門書が約7,000冊、医学専門書が約15,000冊所蔵しております。また、院生の研究に対応できるよう各種データベース・電子ジャーナルを導入し、看護専門書約400冊の電子書籍にアクセスが出来るようになっていきますので、ご自宅からでも常に研究が出来る環境を準備しております。大学院の授業は、大型モニター・Wi-Fi・オンデマンドプリンター等の機器も整って、資料にすぐにアクセスできる、メディアライブラリー内のラーニングコモンズで行うことが多くなっています。

■院生研究室

三木キャンパスでは、教員の研究室の近くに、院生が研究活動で利用するための院生研究室が利用可能となっていて、一人ひとりのスペースが割り当てられている他、院生研究室にはプリンタやコピー機も設置されています。フィールドワークや論文執筆など、多彩な研究活動をしている院生と、分野を超えコミュニケーションも容易に図ることができます。

■長期履修制度について

仕事等続けながら学ぼうとする社会人などに配慮し、入学時から標準修業年限を超える履修計画を立てて学ぶことができる制度です。博士前期課程は、標準修業年限である2年間では大学院の教育課程の履修が困難な者に限り、最長3年間、博士後期課程は、標準修業年限である3年間では大学院の教育課程の履修が困難な者に限り、最長5年間で計画的に教育課程を履修し、修了することができます。

■出願のサポート

本学の出願はWEB出願となっています。出願方法やWEB出願画面の操作方法等がわからない場合は、お気軽にお問い合わせください。平日9:30~17:00、またはオープンキャンパスなど、来学が可能な場合は、対面で操作方法をサポートいたします。

E-mail : exam@kuins.ac.jp

■アドミッション・ポリシー

本研究科は、修了の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)並びに教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)に定める教育を受けるために、次に掲げる能力と意欲を備えた人を求めています。

看護学研究科 博士前期課程 (修士論文コース・専門看護師コース)

1. 看護師、助産師、または保健師として看護を実践できる知識・技術を有している
2. 看護実践で生じた課題を、論理的に表現する能力を有している
3. 看護実践で生じた課題の解決に意欲を持っている
4. 保健・医療・福祉分野の基礎的英語能力を有している

看護学研究科 博士後期課程

1. 看護師、助産師、または保健師として看護実践および看護教育の発展に寄与できる知識・技術を有している
2. 看護実践で生じた課題を、研究活動と結びつけるための論理的かつ抽象的思考能力を有している
3. 関心のある現象に迫るために、専門知識と実践力を生かして自ら行動し、変化を起こす意欲を備えている
4. グローバルな視点で研究と高度実践を行うために必要な語学力を有している

博士前期課程

Master's Program



専攻

看護学専攻
(博士前期課程)



取得できる学位

修士
(看護学)



入学定員

6名



標準修業年限

2年

博士前期課程では、看護の課題を科学的に探求しながら、医療の高度化・専門化に対応する高度な看護実践能力を備えた高度専門職業人の養成、大学周辺地域の少子・高齢化に対応する保健・医療・福祉の課題探求と環境調整、多職種協働を牽引する人材の育成、そして、看護学生や看護師の教育・研修を担い、更に臨床での専門性を深める研究能力を有する人材の育成を目的としています。将来は、より高度な看護実践を行いながら、リーダーシップを発揮できる高度専門職者、臨床の指導者として学生の臨地実習教育を担う者、また看護師への看護実践や研究の教育・指導力を発揮する現任教育者の役割で活躍してくれることを期待しています。

博士前期課程の特色

修士論文コース

看護学の学術理論および応用、最新の看護実践科学を学び、各専門分野・領域における看護の課題を科学的に探究し、看護実践能力と研究能力を培うことをめざすコースです。専門分野・領域を選択し2年間で「共通科目」「専門科目」30単位以上を履修します。特別研究では、選択した専門領域で指導を受けて研究を実施し、修士論文を作成します。

看護職を続けながら、修士の学位の取得が可能

大学院設置基準第14条には、勤務しながら大学院に在籍し修学を可能にする特例措置が謳われています。本学の看護学研究科は、その精神に沿って、夜間や土曜日、夏期や冬期の集中講義の受講などで、看護職として働きながら修士の学位取得ができます。(修士論文コースのみ)



専門看護師 (CNS) コース

急性・重症患者看護専門看護師をめざすクリティカルケア(ICU、CCU、HCU等)、救急看護の分野で5年以上の臨床経験をもっている看護師を対象に、2年間で38単位を履修する専門看護師 (CNS) コースを開設しています。

医療機関との密接な連携のもと、先進医療に対応した専門性の高いカリキュラムが展開されます。課題研究では、クリティカルケア、救急看護、急性・重症患者看護専門看護師の役割などに関する課題について研究指導を行います。大学院修了後、クリティカルケア、救急看護等の分野で急性・重傷患者のケアに携わり専門看護師の役割に関する臨床事例等をまとめることにより、日本看護協会の急性重症看護専門看護師認定試験受験資格審査を受けることができ、一次審査(書類審査)に合格すれば二次審査を受験できます。

充実した実習・演習

ICU、CCU、SCU、救命救急センター、救急部等でクリティカルケアを行っている病院で実習し、高度な実践・コンサルテーション・コーディネーション・倫理調整・教育・研究などの専門看護師の役割について、臨床で活躍している急性・重傷看護専門看護師等から指導を受け専門看護師をめざし臨床実践能力を高めます。さらに、看護実践内容をケーススタディーとしてまとめる過程を通して、専門看護師としてのケアの在り方を検討します。

■学位取得までの流れ

1 年次							2 年次						
4月	8月	9月	11月	12月	1月		4月	5月	8月	12月	1月	2月	3月
特別研究 (1 年夏～2 年冬)													
履修ガイダンス	履修計画の提出	指導教員の決定	文献検討	研究計画書作成	研究計画書提出	研究計画書審査 (中間審査)	研究倫理審査	データ収集	データ収集	分析	修士論文作成	修士論文提出締切	修士論文審査・最終試験
												学位授与判定	修士論文発表会
													大学院修了・学位授与

基盤看護学分野

基盤看護学分野では、看護とは何か、効果的なケアとは、良好な患者－看護師関係とは、看護学基礎教育に求められるものは何か、等、経験における気づき・思いを理論的・科学的に追究します。そこから明らかになった疑問・課題を研究に結び付け、研究の基礎的能力を身につけるとともに、看護の本質を探究し続ける基盤を育成することをめざします。

療養支援看護学分野

療養支援看護学分野では、周手術期看護学、クリティカルケア看護学、救急看護学などの急性期にある患者・家族の生命の維持と回復をめざした看護について探求します。実践での課題を研究に結び付け、急性期リハビリテーション、家族の代理意思決定支援、倫理調整などに取り組みます。また、慢性疾患や障がいをもちながら生活する人とその家族への看護でよく用いられる概念や理論の実践・研究への適用についても検討し、具体的な研究課題として心臓手術を選択するまでの高齢患者の思いや、高齢患者が心臓手術を受けることを意思決定するプロセスを支える援助に取り組んでいます。

その他、がん患者と家族への看護によく用いられる概念や理論の実践や研究への適用についての検討では、がんサバイバーのピア・

サポートの活動の影響要因、がん患者が自分らしく生きる意思決定に影響する要因などを研究課題として取り組み、精神看護学領域については「うつ病」や「統合失調症」など精神疾患を持つ方への看護に加え、メンタルヘルスに関連した理論や援助方法を科学的に探究し、実践の場で役立つ研究を検討します。研究テーマは、臨床での経験や興味に応じて設定し、その成果を臨床での看護活動に活かしていけるように取り組んでいます。

家族支援看護学分野

家族支援看護学分野では、少子化における子どもと家族を取り巻く社会状況をふまえ、子どもの成長発達の特徴および家族の関係性、さらに健康に課題がある子どもとその家族を支えるための主な知見について学び、看護実践への活用方法を探求します。研究課題は履修生の関心をもとに子どもと家族に関わる現象を焦点化し、新たな知見を論文としてまとめます。

また、女性の健康、周産期における母子とその家族の健康をめぐる看護課題についても探求を進め、現象の理解とともに看護提供方法の開発にも取り組み、成果を論文としてまとめることで、看護実践、看護教育、さらには看護管理や新たな政策提言につながる研究にすることが可能です。更に、性と生殖に関する様々な課題についての探求では、助産活動の基盤となる理論について学び、次世代育

成のための助産活動を支えるための学修をおこない、助産・リプロダクティブ・ヘルスなどの関心領域における系統的情報検索およびクリティークを通して、女性及び母子の健康状態を同定し、環境を含め分析して新たな知見を研究論文としてまとめていきます。

生活支援看護学分野

生活支援看護学分野では、高齢患者さんとの看護実践で感じていた思いを、研究テーマとし、認知症を持つ高齢者との関わりや家族の支援、在宅につなげる多職種ケア連携、エンドオブライフケアなどに取り組み、訪問看護、在宅医療、在宅ケアに関わる課題について研究を実施します。そのテーマは、あらゆる健康状態にある療養者と家族に対する支援や、緊急時対応、看護判断力を高める教材開発等訪問看護実践に求められる課題等、幅広いものとなります。

また、地域や在宅で生活する人々への健康支援、疾病予防および健康課題を解決する方策を検討し、健康問題を抱え地域で療養する人々へのケアおよび地域全体のケアシステム構築について探求します。さらに看護におけるグローバル化を鑑み、グローバルヘルスと国際看護の概念を学習し、世界における健康問題とそれに対する戦略の潮流を理解し、実際の国際看護活動に必要な知識を得たうえで、日本国内外における国際看護について探求します。

修了生の声

日本看護の魅力を多くの人に伝えたい

看護学研究科 修士論文コース
コウ ソウ
康 爽さん

勤務先：介護老人保健施設 看護師

現在看護師として介護老人保健施設で勤務しています。看護師として経験を重ねる中で、日本の看護の魅力を感じ患者に寄り添う看護の心に感動したと同時に、中国の看護と日本の看護の差も多く感じるようになりました。自分が自国である中国の患者さんのためにできる看護をもっと知りたいと考え、日本の看護教育を受けたいと思い、大学院への進学を決めました。進学先として関西国際大学を選んだ理由は、働きながら大学院に通えることから選びました。中国と日本の看護教育の違いもあり、私は大学院に進学後、授業での課題の取り組みやレポートの書き方、自身の研究テーマの決定など、わからないことばかりで、正直に苦しみました。しかし、指導教員や同期の仲間が支えてくださり、乗り越えることができました、大学院で看護学について学ぶにつれて、もっと学修を深める必要性を感じました。

大学院で学んだ新たな看護への視点や研究で得られた探求心など、看護専門職として大きな影響を受け、今後私が目指す看護の方向性が明確になりました。今後、日本の看護の魅力を自国の中国をはじめ、多くの人びとに伝えていきたいと思っています。

クリティカルケアを深く学ぶ必要性を感じ、CNSコースに進学しました

看護学研究科 CNSコース
高田 佳澄さん

勤務先：地方独立行政法人大阪府立病院機構
大阪国際がんセンター（集中治療室）

私はがんセンターの集中治療室配属後、教育講演や研究発表を拝聴し、がん以外の原因で亡くなられた患者様やご家族様との関わりの中でクリティカル領域における知識や看護技術不足を痛感し、多職種との協働・連携がうまく実践できないことに悔いが残りました。自身がそれらの知識・看護技術を持ち、また有効なコミュニケーション能力などを身につけていれば、違う看護実践になっていたと思い、クリティカルケアをさらに深く学びたいと考え、急性・重症患者看護専門看護師を目指すため大学院進学を決意しました。

入学後は、授業の資料作成、急性看護学実習、実習後のケースレポート作成、課題研究など大変でしたが、諸先生方より的確かつ懇切丁寧にご指導いただき、無事に乗り越えることができました。一緒に切磋琢磨した学友に出会えたことも、私にとって心身ともに成長できたと感じています。大学院で学んだことで、人に対する関わり方や物事に取り組む考え方も変わったと感じています。さらに、Pre-CNSとして、新たに自分自身の課題を見出すことができ、今後の活動に活かしていけると感じています。

博士前期課程の履修モデル

本研究科では、深い人間理解に基づき、新たな知見を国内外に発信し、必要に応じて心理学等の隣接学問分野における研究方法や分析方法をも適用し看護学の発展や看護実践の改善・開発に寄与できる自立した高度な看護学教育者、研究者、実践者を育成することを目指しています。

■修士論文コース

	科目名称	急性看護学領域	公衆衛生看護学領域
共通科目	看護理論	■	■
	看護倫理	●■	●■
	看護マネジメント論	■	■
	看護研究方法論	●必	●必
	保健・医療・福祉政策特論	●■	●■
	フィジカルアセスメントⅠ	●■	■
	コンサルテーション論	■	■
	看護教育論	●■	●■
専門科目	看護学基礎	■	■
	基礎看護学特論	■	■
	基礎看護学演習	■	■
	療養支援看護学	急性看護学特論	●■
		急性看護学演習	●■
		慢性看護学特論	■
		慢性看護学演習	■
		がん看護学特論	●■
		がん看護学演習	■
		精神看護学特論	■
		精神看護学演習	■
	家族支援看護学	小児看護学特論	■
		小児看護学演習	■
		母性看護学特論	■
		助産看護学特論	■
		母性・助産看護学演習	■
	生活支援看護学	老年看護学特論	■
		老年看護学演習	■
		在宅看護学特論	■
		在宅看護学演習	■
		公衆衛生看護学特論	●必
		公衆衛生看護学演習	●必
		国際看護学特論	■
		国際看護学演習	■
	特別研究（修士論文）	●必	●必

●必：必修科目 ●：履修モデル科目 ■：履修モデル選択科目

■専門看護師(CNS)コース

区分	CNS認定 区別	科目名	単位	開講時期		CNS 認定基準科目		
				1年	2年	共通科目A	共通科目B	専門分野科目
共通科目	共通科目 A	看護研究方法論	必2	春		2		
		看護理論	2	春		2		
		看護倫理	2	春		2		
		看護マネジメント論	2	秋				
		コンサルテーション論	2	秋		2		
		看護教育論	2	秋		2		
	共通科目 B	病態生理学Ⅰ	2	春			2	
		臨床薬理学	2	春			2	
		フィジカルアセスメントⅠ	2	夏			2	
		フィジカルアセスメントⅡ	2	秋				2※
病態生理学Ⅱ		2	秋				2※	
保健・医療・福祉政策特論		2	秋					
統計学		2	夏					
専門科目	専門分野 科目	急性看護学特論	2	春				2※
		急性看護学援助特論Ⅰ	2	春				2※
		急性看護学援助特論Ⅱ	2	秋				2※
		急性看護学演習Ⅰ	2	夏				2※
		急性看護学演習Ⅱ	2	冬				2※
		急性看護学実習Ⅰ	2	夏				2※
		急性看護学実習Ⅱ	2	冬				2※
		急性看護学実習Ⅲ	6	春夏				6※
		課題研究	2		通年			
		修了要件	30単位 以上			8単位以上	6単位以上	24単位以上
38単位以上（CNS認定に必要な単位数）								

※対象の科目はCNS資格を取得する為に履修しなければならない科目

博士後期課程

Doctoral Course



専攻



取得できる学位



入学定員



標準修業年限

看護学専攻
(博士後期課程)

博士
(看護学)

2名

3年

博士後期課程では、研究成果を活用した最新のエビデンスを基に教育する役割を担うと同時に、看護学研究者として研究目的に適した研究方法を必要に応じて心理学等の隣接学問分野における研究方法を用いながら、看護学の新たな知識を創造しつつ、学問体系の構築に寄与でき、看護学の発展に貢献できる看護教育者を育成します。また、看護学分野の研究者として自立して研究活動を行うために必要な研究能力、課題を解決するために、研究目的に適した研究方法を必要に応じて心理学等の隣接学問分野における研究方法も含め適用できる高度な研究能力、課題探求能力、そして問題解決能力を高め、深い人間理解に基づいた豊かな学識をもった教育能力をもち、科学的根拠や研究の視点を持って提言、看護学教育が行える看護学の発展に寄与できる人材を育成することを目的としています。

博士後期課程の特色

看護職を続けながら、博士の学位の取得が可能

本課程の入学者は、保健・医療・福祉分野の実践現場に就業している看護職者や大学等の教育機関に勤務している教育者の社会人を想定しています。社会人入学者のキャリア形成に応え、社会人が仕事を続けながら大学院で就学できるよう、大学院設置基準第14条に定める教育方法の特例を実施します。本学は、その精神に沿って、夜間や土曜日、夏期や冬期の集中講義の受講などで長期履修制度を活用し、看護職として働きながら博士の学位取得ができます。

高度な看護学教育、研究者を目指すことが可能

本研究科では、深い人間理解に基づき、新たな知見を国内外に発信し、必要に応じて心理学等の隣接学問分野における研究方法や分析方法をも適用し看護学の発展や看護実践の改善・開発に寄与できる自立した高度な看護学教育者、研究者、実践者を育成することを目指しています。

専門分野

療養支援看護学

療養支援に必要な専門的看護援助に関する研究論文のレビューを行い、クリティカルな状況や周手術期にある患者・家族の問題や倫理的問題、苦痛の緩和、セルフケア能力の回復、QOLの向上を目指した看護活動、がんと診断されてからの治療方法の選択、緩和ケア・終末期の療養生活など急性期・慢性期治療から終末期の意思決定支援や患者・家族への全人的で包括的な看護と多職種との連携、こころのケア、良好な患者－看護師関係などの看護の本質を探究する視点から、研究課題を明確にし、専門分野における教育研究のアプローチを探究します。

家族支援看護学

少子高齢化が進行するわが国において、子どもを生み育てること、次世代の健康支援について多様な側面から検討します。社会における保健医療システムのあり方も含め、女性と子どもならびに家族支援に必要な専門的看護援助・教育方法等の看護実践や健康教育について検討し、課題を明確にしてそれらの解決に向け、専門分野における教育・研究アプローチについて探究します。

生活支援看護学

高齢期を生きる人、在宅及び公衆衛生の場に必要な専門的看護援助に関連する研究論文のレビューを行い、高齢者の心理社会的発達支援、認知高齢者の看護、療養の場や地域におけるケアの倫理、在宅移行ケアや公衆衛生看護活動における他職種連携、また、グローバルな視点で国内外の様々な地域で生活するあらゆる健康レベル、ライフサイクルの人々への健康課題の明確化、健康増進及び政策化等の観点から研究課題を明確にし、専門分野における教育・研究のアプローチについて探究します。

■学位取得までの流れ

1年次		2年次			3年次		
4月	2月	6月	2月	3月	12月	2月	
履修ガイダンス		特別研究Ⅰ（1年夏～2年春）			特別研究Ⅱ（2年夏～3年冬）		
指導教員の決定		研究計画書提出			予備審査論文提出		
履修計画の提出		研究計画書発表会			予備審査		
		倫理審査			博士學位論文審査		
		研究活動報告書提出			学位論文の提出		
		中間報告会（第一回公開審査）			博士學位論文発表会（第二回公開審査）		
					学位論文審査結果の審議（審査会／審査原案の作成）		
					最終試験（口頭試験）		
					学長による合否決定（単位認定）		
					学位授与（修了）・論文公表		

■履修モデル

(3年間の場合)

3年次	特別研究	[春][夏][秋][冬] 特別研究Ⅱ(必4)		[春][夏][秋][冬] 特別研究Ⅱ(必4)		[春][夏][秋][冬] 特別研究Ⅱ(必4)	
2年次	特別研究	[春] 特別研究Ⅰ(必4)	[夏][秋][冬] 特別研究Ⅱ(必4)	[春] 特別研究Ⅰ(必4)	[夏][秋][冬] 特別研究Ⅱ(必4)	[春] 特別研究Ⅰ(必4)	[夏][秋][冬] 特別研究Ⅱ(必4)
1年次	専門科目	[春季] 療養支援看護学特論(2)		[夏][秋][冬] 特別研究Ⅰ(必4)		[春] 家族支援看護学特論(2)	
	共通科目	[春季] 看護学研究方法論(必2)		[夏] 看護学教育特論(必2)		[秋] 看護学教育論演習	
						[秋] 心理学研究方法応用論(看護学的研究)(2)	

【修了要件】 共通科目は看護学研究方法論(必修2単位)、看護学教育論(必修2単位)を含む4単位以上を選択する。

専門科目は選択した分野の特論(選択必修2単位)を選択する。特別研究は特別研究Ⅰ(必修4単位)、特別研究Ⅱ(必修4単位)を履修する。

2026年度大学院博士課程 入試概要

研究科	入試種別	選抜方法	出願期間	試験日	試験場	合格発表日
前期課程	一般選拔型 社会人選拔型 社会人特別選拔型 (長期履修学生用) 外国人留学生選拔型	1. 学力検査 ・英語 ・小論文 2. 面接 3. 出願書類	[前期日程] 2025年 9月1日(月)～ 9月24日(水)	[前期日程] 2025年 10月5日(日)	三 木 キ ャ ン パ ス	[前期日程] 2025年 10月15日(水)
	社会人特別選拔型 (キャリア推薦入試) 社会人特別選拔型 (キャリア推薦入試/長期履修学生用)	1. 面接 2. 志望理由書 3. 出願書類	[後期日程] 2026年 1月19日(月)～ 2月9日(月)	[後期日程] 2026年 2月15日(日)		[後期日程] 2026年 2月25日(水)
後期課程	一般選拔型 社会人選拔型 社会人特別選拔型 (長期履修学生用)	1. 学力試験 ・英語 2. 口述試験 3. 出願書類 ・研究計画書 ・志望理由書				

※詳しくは2026年度学生募集要項 看護学研究科をご確認ください。

研究領域および事前相談について

出願を希望する方は、出願（出願手続き）に先立ち、入試・広報課に連絡を入れ、入学後の研究・履修内容等について事前相談をしてください。

[事前相談期間]

- 前期日程：2025年8月29日(金)まで
(※入学資格審査を受ける方は、2025年8月18日(月)までに、事前相談を受けてください)
- 後期日程：2025年12月12日(金)まで
(※入学資格審査を受ける方は、2025年12月5日(金)までに、事前相談を受けてください)

場所は三木キャンパスで行います。お申込み、ご不明な点は、入試・広報課：E-mail exam@kuins.ac.jp または TEL 078-341-1615 までお願いいたします。

